

訂正

第 120 巻第 1 号今月のテーマ（総説）「肝細胞癌に対する全身薬物療法—分子標的治療薬から複合免疫療法の時代へ—」（p46-55）の Table 1 および文献引用について、著者より訂正依頼がございましたため、下記のように訂正いたします。

p48 Table 1

抗癌剤/ レジメン	症例 数	治療 ライン	奏効 割合 (%)	病勢 制御 割合 (%)	無増悪 生存 期間 (中央 値： 月)	ハザード比 (95% 信頼 区間)	p-value	生存 期間 (中央 値： 月)	ハザード比 (95% 信頼 区間)	p-value	試験名	著者 報告年	文献 No.
一次治療													
ソラフェニブ	299	1st	2.3%	43%	5.5	0.58 (0.45 ~ 0.74)	<0.001	10.7	0.69 (0.55 ~ 0.87)	<0.001	SHARP	Llovet JM	1
プラセボ	303		0.7%	32%	2.8			7.9	-			2008	
ソラフェニブ	150	1st	3.3%	35.3%	2.8	0.57 (0.42 ~ 0.79)	0.001	6.5	0.68 (0.55 ~ 0.93)	0.014	Asia-Pacific	Cheng AL	2
プラセボ	76		1.3%	15.8%	1.4	-		4.2	-			2009	
レンバチニブ	478	1st	18.8%	72.8%	8.9	0.63 (0.53 ~ 0.73)	<0.00001	13.6	0.92 (0.79 ~ 1.06)	NR	REFLECT	Kudo M	4
ソラフェニブ	476		6.5%	59.0%	7.4			12.3				2018	
アテゾリズマブ +ベバシズマブ	329	1st	30%	74%	6.9	0.65 (0.53 ~ 0.81)	<0.001	19.2	0.66 (0.52 ~ 0.85)	<0.001	IMbrave150	Finn RS	6
ソラフェニブ	156		11%	55%	4.3			13.4				2020	
デュルバルマブ +トレメリムマブ	393	1st	20.1%	60.1%	3.78	0.90 (0.77 ~ 1.05)		16.43	0.78 (96.02%CI, 0.65 ~ 0.93)	0.0035	HIMALAYA	Abou-Alfa GK	8
デュルバルマブ	389		17.0%	54.8%	3.65	1.02 (0.88 ~ 1.19)		16.56	0.86 (95.67%, 0.73 ~ 1.03)	0.0674		2022	
ソラフェニブ	389		5.1%	60.7%	4.07			13.77					
二次治療													
レゴラフェニブ	379	2nd	7%	66%	3.2	0.44 (0.36 ~ 0.55)	<0.00001	10.6	0.63 (0.50 ~ 0.79)	<0.0001	RESORCE	Bruix J	3
プラセボ	194		3%	35%	1.5	-		7.8	-			2017	
カボザンチニブ	470	2nd &3rd	4%	64%	5.2	0.44 (0.36 ~ 0.52)	<0.001	10.2	0.76 (0.63 ~ 0.92)	0.005	CELESTIAL	Abou-Alfa GK	7
プラセボ	237		<1%	33%	1.9	-		8				2018	
ラムシルマブ	197	2nd	5%	59.9%	2.8	0.452 (0.339 ~ 0.603)	<0.0001	8.5	0.71 (0.531 ~ 0.949)*	0.0199	REACH-2	Zhu AX	5
プラセボ	95		1%	38.9%	1.6	-		7.3	-			2019	

NR, not reported（報告なし）.

p49 左段 9 行目

した.

4. Durva + Treme

Durva + Treme は、抗 PD-L1 抗体であるデュルバルマブと抗 CTLA-4 抗体であるトレメリムマブの併用の複合免疫療法である。門脈本幹に腫瘍栓を有する例を除く Child-Pugh A の切除不能肝細胞癌患者を対象として、Durva + Treme とデュルバルマブ単剤とソラフェニブを比較した第 III 相試験 (HIMALAYA) ⁸⁾ が行われた。Durva